



## 福島大学「福島大学地域未来フォーラム2022」を開催

### □□ 学類 □□ □□ □□ コース □□ □□ □□

福島大学は、福島県内の4会場（福島市、いわき市、郡山市、会津若松市）において「福島大学地域未来フォーラム2022」を開催しました。

同フォーラムは、令和4年4月に新設された地域未来デザインセンター（以下、「センター」という。）と、令和5年4月に再編される本学大学院の全体像を地元企業および県民のみなさまに広く紹介することを目的に開催しました。

各会場では、開催市の市長にご挨拶いただき、第1回のいわき会場では、内田広之いわき市長から「福島大学への大いなる期待～福島大学といわきとの連携による、いわきの産業・農林水産業の発展の可能性～」と題しご講演をいただきました。また、三浦浩喜学長から「東日本大震災後の福島大学の取組みと今後の展望」として、福島大学がこれまでに取り組んできた改革などの変遷、現在、大学を取り巻く状況と今後大学が目指すべき方向性についての説明、鈴木典夫センター長および岩井秀樹副センター長から令和4年4月に設立した「福島大学地域未来デザインセンター」の概要と今後予定している各種事業等についての説明、塩谷弘康理事・副学長および山口克彦副学長補佐（総務担当）から令和5年4月に設置予定である本学大学院研究科と令和2年度から本学が取り組んできた大学院改革の概要について説明を行った他、それぞれの開催地域に関連した本学での研究について、教員及び学生が発表を行いました。

第4回の福島会場では、岩井秀樹副センター長による基調講演として『複雑な社会課題と不確実な未来への取組～地域未来デザインセンタープロジェクト～』と題して、地域未来デザインセンターの今後のプロジェクト構想等についてご講演いただきました。

各会場に設置された、本学大学院の教育研究内容を紹介する展示ブース、地域未来デザインセンターブース、キャリアセンター相談コーナー、現役大学生によるなんでも相談コーナーでは、市民や高校生その保護者などの参加者が、説明に耳を傾けていました。

本フォーラムには、市民、高校生やその保護者、同窓生、記者など4会場で約500名（いわき会場約120名、会津若松会場約100名、郡山会場約130名、福島会場約150名）にご参加いただくことができ、大盛況のうちに幕を閉じました。

福島大学は、今後も21世紀的課題に対応した基盤的研究の政策的強化、既存の学類研究科の研究の「強み」の明確化、10年後を見据えた地域の在り方を追求してきます。



三浦学長・役員と参加スタッフ一同



多くの参加者で熱気あふれる会場



各学類・研究科のパネル展示



現役大学生から説明を受ける高校生

研究発表テーマ①  
学生のSTEAM活動紹介と「ふくしまSTEAMプロジェクト」構想について

【第1回】  
8月28日（日）  
いわき会場

人間発達文化類  
中田 文憲教授  
人間発達文化学類4年  
阿久津太一さん  
人間発達文化学類4年  
小柳 開さん  
人間発達文化学類4年  
田中 涼太さん

研究発表テーマ②  
地域の人々と共に地域課題に果敢に取り組み、その解決に寄与することができるイノベーション人材の育成

人間発達文化研究科教職実践専攻 宗形 潤子教授  
人間発達文化研究科2年  
鈴木 貴人さん

研究発表テーマ③  
海産魚中のセシウムとトリチウムの動きの違い

環境放射能研究所  
高田 兵衛 特任准教授

研究発表テーマ④  
福島におけるスマート農業の可能性

食農学類  
窪田 陽介准教授

食農学類4年  
渡部 拓真さん

## 行政政策学類生が標語・デザインを提案「エシカル消費」ポスター

### 行政政策学類 中里 真

2022年度行政政策学類スタートアップセミナー中里クラスは、福島県が令和4年度から「地球にやさしい消費推進事業」を重点化事業の一つと進めていたことが背景となって、私が審議会委員を務めるなど縁のあった福島県消費生活課から、「エシカル消費」ポスター制作についてのゼミへの協力を依頼されました。

そこで、クラスでは学修テーマのひとつとして消費生活分野を扱いました。学生は、まず授業外学修なども活用して専門家によるエシカル消費講座の講義動画を視聴し、「エシカル消費」が「消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うこと」であること、持続可能な社会の実現（SDGsの目標達成）にもつながる必要な行動であることを学びました。

その後、担当課からポスター原案が3つ示され、改善点などの意見が求められました。学生たちは、事前に学んだ内容を踏まえ、誰に対して何を伝えるべきかという観点で意見を交わし、特にスーパーなどに来店した若年層に目の引くポスターとするポスターデザイン改定案を提案する方針を固めてきました。話し合いの過程で、自分たちが過去に見た掲示でどのようなものが記憶に残ったかを確認するといった意見交換がされていたのは、とても興味深かったです。また、認知度の低い「エシカル」という語を知ってもらうためにもエシカルの語は大きくみせたいかとか、あえて意味を知りたいと思われる用語を用いて、ポスターに着目してもらうような標語としたいなどの意見を踏まえて提案を行いました。

ポスターには提案した内容が多く取り込まれ、学生のアイデアが随所に生かされたものとなっています。ポスターの完成後、福島県のプレスリリースとは別に大学の定例記者会見でも情報を提供したところ、活動を福島民報社のウェブ版記事で取り上げていただきました。また別途、福島民友、福島民報各社の社説にて「地球にやさしい消費推進事業」が取り上げられた際にも福島大生の関わりを紹介いただき、その記事を見た東北経済産業局福島拠点の方から問い合わせをいただくなど各方面から関心を寄せいただきました。学生にとっても大学での学びの実践の機会となっただけでなく、目に見える形で反応をいただけたことは励みになりました。



エシカルポスター



スタートアップ中里クラス

## TOPIC 「防災推進国民大会2022・兵庫」に出展

### 地域未来デザインセンター □□ □□

「防災推進国民大会2022」（通称「ぼうさいこくたい」）が、10月22日（土）～23日（日）神戸市の「阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター」をメイン会場に開催されました。

「ぼうさいこくたい」は、防災に取り組む様々な団体や機関が一堂に会し、知識、経験、技術などを全国規模で発信・交流する総合イベントで、本学は第4回（2019年）から参加しています。

全国から319団体の参加があり、本学は「福島大学地域未来デザインセンター」として「東日本大震災からの復興の中での福島大学の取り組み」をテーマに出展しました。「福島での教訓をもとに作成した防災教育教材『さすけなぶる』による避難所運営」のほか、相双地域支援サテライトや学生団体災害ボランティアセンターによる被災地域に対する復興支援活動について展示・説明を行いました。

地震、水害などの災害が頻発していることもあり関心が高く、会場は来場者で満杯になりました。本学のブースにも多くの方がお見えになり、福島大学の取り組みについて熱心に質問されていました。

